

平成25年度 第1回岡崎市市民協働推進委員会会議録

日 時 平成25年8月17日（土）午前10時～正午
場 所 岡崎市福祉会館3階視聴覚室
出席委員 牛山久仁彦委員長・神尾明幸委員・石川優委員・白井宏幸委員
三島知斗世委員・柴田秀和委員・宮澤会美香委員
欠席委員 関谷みのぶ委員・今井友乃委員・石川貢委員
事務局 市民生活部（市民協働推進課）：高田部長・梅村課長・雑賀副主幹
石原主査・江場主事・入木事務員
文化芸術部（文化活動推進課）：神谷主幹・近藤主査・細野主事
傍聴者 1名

1 開会のことば

2 委員長互選

委員長：牛山久仁彦氏（明治大学政治経済学部教授）

職務代理者：関谷みのぶ氏（名古屋経済大学短期大学部保育科准教授）

3 委員長あいさつ

4 岡崎市市民協働推進委員会の概要

事務局 資料により説明。

5 議題

(1) 市民協働推進計画評価・見直しスケジュール

事務局 資料により説明。

委員 市民活動団体が集まって協働の推進について話し合いを行ったり、庁内で意見交換をするという形を考えているか。

事務局 庁内では、庁内推進会議があり課長級がメンバーとなっているが、それと共に実務担当者レベルで協働について協議していく機会も検討している。市民活動団体については、昨年度実施したアンケートを参考にし、今のところ直接的な機会は考えていない。何かよい案があれば検討していきたい。

委員 例えば助成金成果報告会など、何らかの機会をうまく使って市民活動団体の意見を聞くことも必要かもしれないので、検討していただきたい。

委員 りぶらまつり（11月中旬）に各種の市民活動団体が集まる場がある。他にも、平成28年度に市制100周年を迎えるにあたり、市民

活動団体同士が集まる機会を設けないといけないと考えているので、そういう機会を捉えていければと思う。

委員 わざわざイベントを設けるのは難しいかもしれないが、機会を捉えて短い時間でも意見を聞く場を設けるなど、タイミングを図って工夫してみてもよいかもしれない。

事務局 検討していきたい。

委員 評価案自体は、今日一定の考え方が示されると思うが、次回決定ということでしょうか。

事務局 はい。

(2) 計画主要事業の実施状況の報告及び評価

事務局 資料により説明。

委員 評価方法のAからFと実施状況の「実施」「一部実施」等は昨年度から引き継いでいるのか。

事務局 昨年度まとめたので、少し変えたところは先ほど説明したが、実施状況については引き継いでいる。評価方法のAからFは今回初めてである。

委員 実施状況は、通常「実施」「一部実施」「未実施」だと思うが、「見直し・再検討」については「未実施」ということでしょうか。

事務局 「26 メーリングリストを活用した連携」については、未実施である。

委員 「14 市民活動を支援する助成制度の検討」についてはどうか。

事務局 これについては、実際に行っている。「見直し・再検討」で回答してしまったが、訂正する必要があるように思う。

委員 「見直し・再検討」が色々な感じがする。例えば、「35 市民協働推進指針の見直し」について、指針の内容を含んだ条例を制定したので、指針を見直す必要がなくなったということだと思うが、これも「未実施」でよいのか。

事務局 そうということになる。計画を策定したので、そちらに包含するという考え方だが、結果的には「未実施」である。

委員 それでは、「未実施」にしたほうがよいのではないか。先ほどの「14 市民活動を支援する助成制度の検討」については、「一部実施」でよいのか。

事務局 「一部実施」でよいと思う。

委員 ちなみに、「47 マネジメント・リーダー育成の研究」について、「完了」ということは実施したということか。

事務局 これは「未実施」である。色々聞き取りをしたところ必要ないとのことだったので、評価結果は「廃止」にしたほうがわかりやす

い。自治事務調査については継続していくが、学区の会長を集めて学区の運営について学ぶための研修は実施しない。

委員
事務局
委員

現在、地域の総代のために実施している研修等は何かあるか。

新任総代向けの研修のみである。

総代業務を熟知する必要があるので、これは一番大事なことであり、必要である。

事務局

学区の会長を集めて学区の運営について学ぶための研修は必要がないとのことなので、継続しないという評価にした。

委員

「町内会活動の活性化」の施策の中に、「市民活動の支援及び推進」ということで「47 マネジメント・リーダー育成の研究」とあるが、これは総代会についてということか。

事務局

市民活動団体を、テーマ型市民活動団体と地域コミュニティ型市民活動団体と定義したので、双方を同じ文言で事業内容を書いたため分かりにくく、不適切であったように思う。

委員

その区別はまた議論するとして、実施状況については、評価の結果にも関わってくるところなので、「見直し・再検討」と書いているところは、わかりやすく「実施」「一部実施」「未実施」と直し、整理して欲しい。

事務局

それでは、実施状況シートの実施状況は、「実施」「一部実施」「未実施」に区分を変更して、見直すことにしたい。

委員

評価結果について、「完了」としてあるのは「達成」ということでよいか。評価として上からA、B、C…とついているように思うが、やっていないのに「完了」とするのはおかしいと思う。例えば、「35 市民協働推進指針の見直し」について、「未実施」だけど「完了」というのはおかしい。個別で検討していくが、「未実施」で「廃止」になるのか。「26 メーリングリストを活用した連携」も「未実施」で「廃止」となる。計画として掲げたが実施できなかったものにA評価をつけるわけにはいかず、残念ながら最低の評価とならざるを得ない。その点でいうと、A、B、C…というのはよいが、「A：達成」「B：拡充」「C：現状維持」「D：縮小」「E：見直し」「F：廃止」に言い回しを整理するとよい。

事務局

それでは、「47 マネジメント・リーダー育成の研究」について、自治事務調査をこれに充て、評価を「A 達成」から「C 現状維持」とさせていただく。

委員

趣旨は基本的に変えていない。評価がA、B、C…と上からついている。だが、やっていないのに「完了」というのが気になった。「継続」についても、拡充なのか、現状維持なのか、縮小なのかがはっきりしたほうがわかりやすい。また、例えば「B 拡充（事業を継続

して、さらに施策を拡充する)」「C 現状維持(そのまま事業を継続する)」「D 縮小(事業は継続するが、事業規模は縮小する)」のように説明をつけるとわかりやすいと思うので、そのように整理をしてもらえばどうか。

事務局

それでは、中身について議論していきたいが、何かあるか。例えば、「26 メーリングリストを活用した連携」について、サーバーの予算がないからできないとあったが、それはどう考えるべきか。

元々計画を策定するときには色々なところに照会をし、できるという話だったので計画に挙げたが、担当課からセキュリティの問題上、不特定多数の活動に使わせること自体ができないということであった。また、容量や経費の面でも断念せざるを得なかった。一言でいえば、見込みが甘かった。そして、メールマガジンの応募が多かったので、そちらの情報提供が主になった。

委員

「14 市民活動を支援する助成制度の検討」について、資料6の市民活動団体数の推移をみると、登録数も最近は落ち着いてきており、これから減少していくことも頭にいれていかなければならないと思うが、減少していく中での問題点は、アンケートにも出ているが、市民公益活動助成金の申請に関して、一生懸命大変な事務手続きの準備をしても、審査に通らないとやっても仕方ないとやめてしまう団体もいると思う。そこで、落選した団体に対して、事務手続きに係る費用の補助をするようにすればいいのではないか。そうすれば、助成金の申請に挑戦しようと思う団体も少なからずいるのではないか。

委員

申請団体に対し、何らかの支援は必要だと思う。アンケートを見ると、補助金はいらぬという団体が50%を超えている。これについては、どう考えたらいいのか。

事務局

過去に聞いた話だと、全部の団体ではないが、書類が煩雑であることと細かく予算を求めることを言われたことがあり、そういったところが影響していると思う。50%すべてではないが、やはり裕福な団体もあれば縛られたくない団体などもある。

委員

縛られたくない団体は、やっていけるのだからそれでいいと思うが。

事務局

そういう理由でもらわなかった団体が、今年度は応募していたりしたので、その時々で状況は違うのかなと思う。

委員

そのあたりの問題は、どこの自治体でも抱えている問題で、予算にも関わってくることなので、かなり予算を使う自治体では当然たくさんの方が出てくることになる。ここのところ言うと、どれだけ支援ができるのかと金額的にどれだけ拡充できるのかの問題

だろう。

委員 今年度の審査会においても、20 団体を集めたのに、少しの団体しか補助金を交付されなかったと苦情があった。これだけ団体が多いのに、予算がたった 100 万円とは何ですかと言われた。一度にはやれないにしても関係者の理解を得ながら徐々に枠組みを決めて、市民の希望がある程度かなうようにやっていけばよいと思う。

書類に関しては、厳密でよいと思う。市の大切なお金を使うわけだから、我々も書類で審査するしかない以上、いい加減な井勘定で提出されては困る。簡略的なやり方ではなく、きちっとやってもらった方がよい。

委員 予算は他の施策とのバランスなど色々あるとは思いますが、神奈川県のある人口 3 万数千人の自治体でも補助金予算を 120 万円確保している。もちろん予算全体的なバランスと段階的にとということではあるが、市民活動への予算拡充ということで入れておきたいと思う。

他の項目について、「47 マネジメント・リーダー育成の研究」は「実施」で「達成」なのか。

委員 先ほどの説明で理解はしたが、文言的にどうかということ。

事務局 「実施」にさせていただき、評価結果を「現状維持」にしたい。

委員 本市職員の意識改革について、牛山先生の講演など研修を実施しているということだが、これは毎年行っているのか。

事務局 毎年何らかの形では行っているが、予算の関係でだんだん削られている。21 年度に福社会館 6 階ホールで班長級向けに牛山先生の講演を行った。続いて、次課長級向けに再度講演をしていただくなど段階的に実施し、最近は新規採用職員向けに研修を行っている。

委員 課長級以上の職員は大丈夫だと思うが、市民サービスの窓口となり、多くの人と接する班長級職員に対して教育をしなければならないと感じることが多々ある。予算をとって市民サービスについて勉強する機会を設けることができればよいと思う。

事務局 先ほど説明した庁内推進会議にて、実務担当者として出席する班長級職員にその場で計画に関わってもらう中で、理解を深めてもらうということで実施していきたい。

委員 研修の面では、職員研修担当との連携はどうか。昨年度から愛知県の研修所で協働に関する研修を行っており、多くの自治体職員と情報交換や意見交換などができる機会であるが、岡崎市からの参加がなかった。研修に関する情報も含め、人事課と連携して色々な研修の機会を捉えることが必要ではないか。

委員 社会福祉協議会でも昨年度から補助制度をやっているが、岡崎市として補助金 100 万円はあまりにも少ないと思う。もう少し市民協

働に関する予算を増やしてもらおうようにして、もっと大勢の市民に理解してもらおうようにしたらよいと思う。

委員 予算を増やしてもらうには、中身が充実していて、市民にも周知をする必要があるが、その点から言えば、実施に対する評価のところに成果の指標を入れていくことが大事だと思う。計画にも目標数値は入っていないのでどこまで入れられるかわからないが、アンケートの関連する指標を入れるなど、何らかの形で事業を実施したことによりこういう成果があったという評価を文言で入れれば、市民にも成果が伝わりやすい。

事務局 「現状維持」や「廃止」など評価結果を書いたうえで、アンケート結果など客観的な評価を文言で示す。

委員 そこを記号や点数でつけてしまうとまた物議を醸すので、説明的に書くようにするとよい。

委員 助成金の使い道について、一般的に見ておかしいと思われる場合に返還義務のようなものはあるか。

事務局 ある。

委員 成果として出すと同時に、領収書など厳しく追及した方がよい。

事務局 これまでも、領収書などの書面上のチェックと団体などへの聞き取りを行うなどして、使い道が対象外であれば返還してもらうなど、厳しくチェックしてきた。

委員 成果として、「25 市民活動団体などの連携体制の検討」について、とてもいいことだと思うので、結果としてどんなつながりが生まれたかが見えてくるとよい。また、「18 相談事業の展開」について、拠点施設の主軸業務として継続していくことになると思うが、相談内容のテーマが何があり、どんなテーマが増え、相談に対して十分に答えられる体制がとれているかなど、細かいデータを取りながら、今度どのように強化していくのか検討できるとよい。

アンケートで気になったのが、メンバーが固定化したり、高齢化している団体が多いという問題。情報発信のような仕組みも大切だが、活動の中身をどれだけしっかり考えてやっているかという人材育成に関わる部分大きい。計画で言うと「16 マネジメント・リーダー育成の研究」「17 体験型の学習機会の提供」がそれにあたると思う。これらは割と県の事業をうまく活用しているが、今後県の事業が少なくなってくるので、少なくなっても岡崎市独自で継続できるような体制をこれから検討できるとよい。

委員 評価をして、これまでの計画にあったものはほとんど「現状維持」になると思うが、「見直し」や「廃止」も出てきて数が減ってくる。新たに必要な事業の計画などについて、どのように議論を進めてい

けばよいか考えはあるか。

事務局

アンケートの結果や評価を踏まえ、他市の事例も研究しながら、こうした新しい施策を行えば団体のニーズや今ある課題を埋めることができるのではないかという提案を、まず事務局から出させていただいてはどうか。

委員

前提にこの評価があり、評価において達成されたことはよいが、達成されなかったことについて、評価案の確定後に、次の計画でどうするかの方角性を示してほしい。委員の皆さんも、その点について何か知恵があれば事務局まで連絡をしてほしい。

6 閉会のことば